

緊急安全情報

2009 年 11 月 4 日

非血縁者間骨髄採取認定施設

採取責任医師 各位

財団法人 骨髄移植推進財団

ドナー安全委員会

骨髄採取後、左腸腰筋部位に血腫を認めた事例について

このたび、骨髄採取後、左腸腰筋部位に血腫を認めた事例が報告されました。採取施設からの報告によれば以下のような概要です。

<経過>

入院時 Hb 13.2 g/dl

Day +0 骨髄採取 採取部位：両側後腸骨陵 骨髄採取量：1010 ml

採取 2 時間後、左鼠径部辺りの腹痛を訴え、鎮痛剤を処方するが、痛みが治まらず、CTを施行。骨盤内出血を確認し、血管造影を施行。出血の責任血管と思われる動脈にスポンゼルでの塞栓術を施行し、鎮痛剤と安静にて経過観察とした。

Hb 11.1 g/dl

Day+1 CT施行し、血腫の縮小傾向を認めた。新たな出血所見は見られなかった。

Hb 9.9 g/dl

Day+2 Hb 9.5 g/dl

Day+3 CT施行し、血腫は前日より更に縮小が見られた。食事の制限はなし。

Hb 9.4 g/dl

左足の動きに若干の制限あり。

Day+5 Hb 10.7 g/dl 室内歩行可能。

<原因> [採取施設からの報告]

骨髄採取時に、骨髄採取針が腸骨を貫通した可能性が高いと考えられる。

(貫通の原因については調査中)

原因の特定につきましては、財団としても調査委員会を設置し調査をする予定であります。当面は、各施設におかれましては、穿刺針の長さと腸骨の厚みを十分配慮して、穿刺の深さを調整することに留意して頂きたいと存じます。

以上をご確認の上、ご対応をお願い申し上げます。

財団法人骨髄移植推進財団

ドナー安全委員会 事務局

ドナーコーディネート部 橋下、橋場

TEL 03-5280-2200

FAX 03-5283-5629